エルネオス

「お金の仕組みの摩訶不思議」第12回

ワクチンは危険、接種はさらに危険

ベーシックインカム（基礎所得保障）は正しい政策

エレン・ブラウン女史との対話：大地舜（国際ジャーナリスト・翻訳家）

新型ウイルスは遺伝子工学の産物だったことが確定した？　世界に拡がるベーシックインカムは正しい政策か？　新型コロナウイルスのワクチンは作れないし、接種してはいけない理由？　ロバート・Ｆ・ケネディー・ジュニアとビル・ゲイツの戦い？　などについて米国でベストセラーとなった『負債の網』（那須里山舎刊）の著者エレン・ブラウン女史に見解を伺った。

―　新型コロナウイルスが自然に創られたものではなく、遺伝子工学の産物であることが、明らかになりましたが、これには驚きました。フランスのウイルス学者であるリュック・モンタニエ氏が、「このウイルスの構造は、私が米国の同僚であるメリーランド大学ヒトウイルス研究所のギャロ博士に、研究試料として送ったものとまったく同じものだが、四つのたんぱく質がＨＩＶ（ヒト免疫不全ウイルス）に変更されている」と明言しています。（<https://www.youtube.com/watch?v=-a7nld57f2M&feature=youtu.be&fbclid=IwAR1t6LUsAVp24WkH7bm-i446JOCHslvMfDDeCy-GL0HnvpnwusWWAnDsR08&app=desktop>）

ブラウン氏　リュック・モンタニエ博士の証言は重たいですね。この方はエイズ（後天性免疫不全症候群）を発症させるＨＩＶ（ヒト免疫不全ウイルス）を一九八三年に始めて発見した方で、二〇〇八年にノーベル生理学・医学賞を授賞しています。

―　フランスのテレビ局のインタビューで、「あなたのような立場の人が、こんな重要な発言をして大丈夫ですか？」と聞かれて、「私はノーベル賞学者だし、かなりの歳だし、フリーな立場だから平気だよ」と言っていました。

ブラウン氏　私も同じテレビ・インタビューを見ましたが、リュック・モンタニエ博士が、次世代移動通信「５Ｇ」の影響について述べていたのにも気がつきましたか？

―　はい、言っていましたね。中国の武漢市はスマートシティの実験都市で「５Ｇ」の通信基地が一万ヶ所もあるそうです。それが新型コロナに影響を与えたのではないかと考えていました。

ブラウン氏　多くの科学者たちが次世代移動通信「５Ｇ」の自然界への影響を深刻に懸念しています。

―　リュック・モンタニエ氏が米国に送ったウイルス試料ですが、その後、米国のウイルス研究所で研究されていましたが、二〇一四年に米国でコロナウイルスの研究が禁止されていますね。あまりにも漏えい事故が多いので、当時のオバマ大統領が禁止したそうです。そこでアメリカ国立アレルギー・感染症研究所のアンソニー・ファウチ所長が、密かに中国に研究継続を依頼していたのですね。これはニューズウィーク誌の記事で読んだのですが・・・。

ブラウン氏　そうですね。米国は二〇一九年の九月まで武漢ウイルス研究所に資金提供をしていたとのことです。米国の資金提供が止まってすぐに武漢市で新型ウイルスの蔓延が始まったわけですが、謎が深いですね。

―　ところで最近、オンラインインタビューを受けてお忙しいそうですが、どのような内容でしょうか？

ブラウン氏　主に州立や市立の公共銀行設立の可能性についてのインタビューです。

―　急に増えたようですが、理由があるのですか？

ブラウン氏　米国の中央銀行であるＦＲＢ（米連邦準備理事会）が主導する三兆ドル（約三二〇兆円）の経済緊急処置によって、大企業と銀行は救済されますが、州政府は救済されません。共和党の上院トップであるマコネル院内総務は、州が財政破綻をすればよいのだ、などと発言をしています。そこで公共銀行設立の必要性が出て来ます。銀行ならば、コロナ危機の対策費としてＦＲＢからお金をいくらでも引き出すことができるからです。

―　五月一二日に米民主党がさらに三兆ドルの財政支出をするよう提案しましたね。

ブラウン氏　そうですね。そのうち一兆ドルは州・地方政府を支援するという法案ですが、よい考えです。カリフォルニア州は国家として考えると世界でも第五位の経済大国です。ですからカリフォルニア州が支配する州立の中央銀行を持つべきです。そうすれば、州の経済を活性化できるし、人々のための経済運営がスムーズにできると、私は強く提言しています。現状ではウォールストリートの銀行にお金を吸い取られています。

―　世界的に人々に現金を給付するというベーシックインカム（基礎所得保障）流行しています。米国だけでなく、スペイン、香港、日本でもおこなわれていて、世界が様変わりしましたね。今では誰もが「独立した通貨を持つ独立国家は、お金を必要とする量だけ発行できる」とする、ＭＭＴ（現代貨幣理論）に賛成していることになります。コロナ危機が始まるまで、日本のＧＤＰ（国内総生産）にたいする債務は二三〇パーセントでしたから、これは世界の日本化とも言えますね。もっとも、世の中ではＭＭＴ反対論者が多かったので、今でもベーシックインカムに納得できない方も多いはずです。

ブラウン氏　現代の「お金の仕組み」を考えると、日本や中国の政策は正しいのです。現代ではお金のほとんどが負債（借金）として銀行によって創造されています。負債が生まれたとき同時に、利子が生まれますが、この利子の分のお金は創造されていません。つまり、世の中では常にお金が不足しているのです。一方、銀行に負債（借金）が返済されると、お金は消滅します。つまり利子として払うためのお金が無くなるわけです。したがって、不足しているお金をベーシックインカムのような形で、社会に与えることが必要になります。経済学者のミルトン・フリードマンが言うように「デフレを解消するのは簡単だ。お金を印刷してヘリコプターから人々にまけばよい」のです。大金をヘリコプターマネーとして国民にばらまいても、簡単にインフレが起こることはありません。現代社会は基本的にお金不足のデフレ社会だからです。

―　ベーシックインカムは、労働しない人々にもお金を渡しますが、人々が怠惰にはならないのでしょうか？

ブラウン氏　お金持ちは、株式などから配当金を得ていますが、それで彼らが怠惰になることはあるでしょうか？　お金に余裕があると、人々はさらに意欲的な生き方をすると思います。

―　では、現金をばらまいても働く意欲は無くならないわけですね。

ブラウン氏　もちろんです。たとえば、ロンドンの一三人の路上生活者を対象にした研究があります。（<https://thecorrespondent.com/386/has-the-time-finally-come-for-universal-basic-income/51070573796-cb9a9b6f>）彼らに食べ物や寝るところを与え、さらに四〇万円を自由に使えるようにしたのです。

―　いつの話でしょう？

ブラウン氏　二〇〇九年です。その一年半後の結果を見ると、ホームレスの人々は図書館にいき勉強し、料理人になる修業をして、一三人のうち九人が自力でアパートを借りて住めるようになりました。世界中でベーシックインカムに関する研究が多くされていますが、結果は明らかです。貧乏の原因は「現金不足」です。貧しい人々に「現金」を渡すと、人生の選択肢が増えて、お金は有効に使われ、生活が向上します。

―　話は変わりますが、世の中では新型コロナウイルスの解決策はワクチンの開発にあると、叫ばれています。一方、昔からロックフェラー財団やビル・ゲイツ財団は、世界の人々すべてにワクチンを接種したいと考え、デジタルチップを身体に埋め込む技術の開発に力を入れています。このチップが医療の記録を維持し、財布やパスポートの代わりになるわけです。

ブラウン氏　ゲイツ財団が最新技術として特許申請しているのは発光酵素を使い、砂糖を微小な針にしてワクチンを接種する装置です。これは入れ墨のようなものですが、五年間、スマートフォンのアプリで内容を読み取ることができます。（<https://prepareforchange.net/2020/05/06/shock-as-its-revealed-an-enzyme-called-luciferase-is-what-makes-bill-gates-implantable-quantum-dot-microneedle-vaccine-delivery-system-work/?utm_source=rss&utm_medium=rss&utm_campaign=shock-as-its-revealed-an-enzyme-called-luciferase-is-what-makes->）

―　ビル・ゲイツ財団がデジタルＩＤやワクチン開発に投じている投資額にはすごいものがありますね。

ブラウン氏　そうですね。しかしワクチン接種には注意が必要です。

―　私は今、『Plague of Corruption by Dr. Judy Mikovits』（二〇二〇年四月刊：『買収という疫病』本邦未訳）を読書中ですが、製薬会社が金もうけのためには、ウソをつき、人々を病気にしていることを知り、怒りを感じます。この本の序文をジョン・Ｆ・ケネディ大統領の甥に当たるロバート・Ｆ・ケネディ・ジュニア氏が書いています。

＊＊＊

序文：道義的勇気と私たちの未来（抜粋）

* 著者のジュディー・ミコヴィッツ博士は、現代のもっとも優れた科学者の一人であり、彼女を中心とするチームは致死の病気であったエイズ（後天性免疫不全症候群）を、死ぬことのない病気に変えている。
* このチームが見つけたのは、ワクチン接種によって動物のコロナウイルが人間の体に入り込み、変種となり癌を作ることだ。
* 彼女は慢性疲労症候群（ＣＦＳ）の原因も、ワクチン接種にあることを発見した。最初に慢性疲労症候群が発生したのは一九三四年から一九三五年のことで、ロサンゼルス郡病院で、ポリオワクチンの実験的な接種を行なったことにある。このワクチンはネズミの脳で培養されたが、ネズミのウイルスが人間に伝染したのだ。病気になったのは一九八人の医師と看護婦だったが、ワクチンはロックフェラー財団が開発したものだった。
* 慢性疲労症候群はＸＭＲＶというウイルスによって発症するが、このウイルスを持つ妊婦が子どもを産むと、自閉症を発症させる可能性が高い。
* ジュディー・ミコヴィッツ博士の発見は世界の製薬会社に衝撃を与えた。動物の組織を使ってワクチンを製造することの危険が明らかになったからだ。ワクチン接種の弊害は多く、インフルエンザ・ワクチンも役に立たないものが多いが、製薬会社は科学的な研究を無視して売っている。
* 科学の世界では「真実を語る」と、攻撃を受ける例がたくさんあるが、ミコヴィッツ博士のケースがまさにそれにあたる。

＊＊＊

―　また、ロバート・Ｆ・ケネディー・ジュニアは、雑誌の記事で次のようにビル・ゲーツを非難しています。（<https://www.globalresearch.ca/gates-globalist-vaccine-agenda-win-win-pharma-mandatory-vaccination/5709493>）

＊＊＊

「ビル・ゲイツツのグローバリスト・ワクチン・アジェンダ」

* ビル・ゲイツはワクチン関連の慈善事業で世界の健康政策を支配しようとしている。その中にはデジタルＩＤを人間の体に埋め込む事業の推進も含まれる
* インドではゲイツ財団がポリオ撲滅のワクチン接種プログラムを主導して、二〇〇〇年から二〇一七年の間に、四九万人の子どもたちを身体障害者にしてしまい、インド政府から告訴されている。
* 恐ろしいポリオの発症が起こっているのは、コンゴ、アフガニスタン、フィリピンだが、いずれもワクチン接種によるものだ。二〇一七年には世界保健機構（ＷＨＯ）も、しぶしぶとポリオが広まったのはワクチン接種のためであったことを認めている。
* 二〇一八年におけるポリオ発生の原因の七〇パーセントはワクチン接種によるストレスのためである。
* ゲイツ財団は二〇一四年にインドでＨＰＶワクチンを二三〇〇〇人の少女に接種したが、一二〇〇人が深刻な副作用に襲われ、七名が死亡した。インド政府の調査で、本人や家族の同意を得ずにワクチン接種をしており、病気になった少女の治療もおこなわず、現在、インドの最高裁判所で訴訟が行われている。
* 南アフリカの著名な経済学者パトリック・ボンド教授はゲイツの慈善事業を「無慈悲で非道徳だ」と非難している。南アフリカの新聞は「私たちは製薬会社の実験用ブタなのか」と怒りを表明している。
* 二〇一〇年にゲイツ財団はアフリカでマラリアのワクチンの人体実験をおこない、接種された五九四九人の子どもたちの一五一名が死亡、一〇四八人が身体障害や発作などの深刻な副作用に悩まされた。
* 二〇一〇年にゲイツはＷＨＯに一〇ビリオンドル（一兆円）を寄付して「次の一〇年をワクチンの時代にしよう」と呼びかけたが、その一ヶ月後にＴＥＤＴＡＬＫというトーク番組で「新しいワクチンを使えば世界の人口を減らすことができる」と述べている。
* 二〇一四年にケニヤのカソリック教医師団が、ＷＨＯを起訴した。ケニヤの数百万人の少女たちにＷＨＯが破傷風のワクチンを接種したが、不妊薬がふくまれていたのだ。ＷＨＯは最終的に不妊用ワクチンを開発していたことを認めた。不妊ワクチンの接種にかんする非難はタンザニア、ニカラグア、メキシコ、フィリピンでもおこなわれている。
* 現在の新型コロナウイルスが生んだ危機に乗じて、ビル・ゲイツは米国の子どもたちにも危険なワクチン接種しようとしている。

＊＊＊

―　ロバート・ケネディー・ジュニアはそうとうな危機感を持っているようですが、どう思いますか？

ブラウン氏　私はハリウッドの有名な映画監督アーロン・ルッソの証言が気にかかっています。ロックフェラー財団が計画していたことが、ビル・ゲイツ財団によって、どんどん実現されているように思います。<https://www.youtube.com/watch?v=WiTY5lf9Cxg>

―　アーロン・ルッソ監督の証言の中でも、人間にチップを埋め込むとか、人類全員にワクチン接種をするとか、まさに実現しそうですね。ビル・ゲイツ氏は、新型コロナウイルスのワクチンを開発していますが、実現したら怖いですね。

ブラウン氏　コロナウイルスは変異の速度が速いので、ワクチンは作れないと思います。

―　なるほど、逆に弊害がたくさん起こりそうですね。前の伝染病であるＳＡＲＳ（重症急性呼吸器症候群）やＭＡＲＳ（中東呼吸器症候群）のように一〜二年で消滅してくれますかね？

ブラウン氏　米国のザック・ブッシュ博士によると、地球の支配者はウイルスであり、人間はウイルスと共生して生きるのが上手だそうです。彼はワクチンを作るのは無意味だと言います。それよりも太陽を浴びて、自然食品を食べて、健康に暮らして、ワクチン接種を受けないで、自然体でからだの抵抗力を高めて生きるのがベストだそうです（<https://www.youtube.com/watch?v=Zk9NIyc9JlA>）

―　すごく説得力を感じます。

（以下、次号に続く）